

# 京都日本画の誕生 巨匠たちの挑戦

京都市立芸術大学の創立130周年を記念し、同大にゆかりの作家の代表的名品を一堂に集めた展覧会「京都日本画の誕生～巨匠たちの挑戦」が京都市美術館で開かれている。同大の音楽学部出身で、子供のころから京都の日本画に親しんできたというマリンバ奏者の通崎睦美さんに聞いた。【澤木政輝】

## in 京都市美術館 来月7日まで



### 通崎睦美さん

#### 魅力を語る

通崎さんにとって、日本画は随分身近なものですね。

◆職人の家庭に育ったので、休みといっても旅行などは無理で、美術館とか画廊に行くと、百貨店でお買い物をして、帰りに食事するというのがたまの休日の過ごし方でした。画廊でどんな絵を見たかという記憶はあまりなく、ジュースをいただいていたくらいのことです。父も祇園で遊ぶようなダンナさんと違い、つましい生活の中でちょっとした美術品を手に入れて飾る、ということこそ好きな趣味としていたようです。美術館で見るような作品とはまた別ですが、身の丈にあったものだからこそ、自分のものとして楽しめるでしょう。

—今日も床の間に、土田麦僊の軸が掛かっています。

◆これは私が買ったもので、「助六」の絵です。幾何学的な助六が気に入っています。掛け軸で描けない、麦僊ならではの味のあふれた絵ですね。アートパールの若い作家さんの作品に比べると、意外に巨匠のちよっとした作品の方が手が届きやすいんですよ。着物も着るために買ったというコレクションになったのですが、絵も美術品というより「ここに飾りたい」「この季節に飾りたい」という感覚で、日々の暮らしになじんんでいます。思えば京都だからこそ出会えた物も多く、京都画壇と京都の町の結び付きの強さを感じますね。



土田麦僊「髪」

1911年、京都市立芸術大学芸術資料館蔵

# ケースなし展示 名作の味わい一層

—京都の日本画の、こんなところが魅力ですか。

◆子供のころに昭和中期の日本画を見て、「端正で綺麗なもの」というイメージが染みついていました。しかし、高校に進んで現代音楽をやり出したころから日本画もアートとしてとらえるようになって、何か物足りなくなると、一時は遠慮に思え、洋画や現代美術を熱心に見た時期がありました。最近は大正期や戦前の日本画、綺麗なだけじゃない、ちょっとした面白みやしゃれっ気、そここまが光る、自由な雰囲気のある日本画にひかれています。(小野) 竹藪のポップさなんかもいいですね。



床の間に掛けた土田麦僊「助六」を見る通崎さん

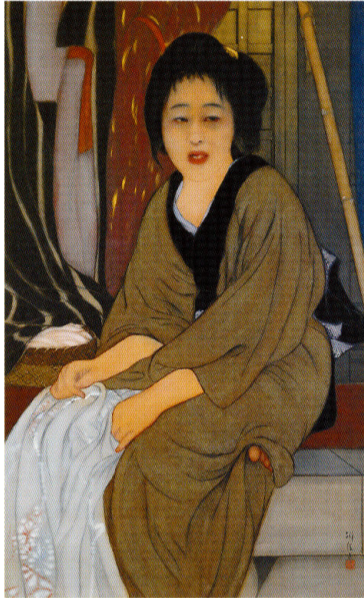
—今回の展覧会はほかうでしたか。

◆京都画壇の作品をまとめて見ることができてうれしい企画ですね。有名な作品もガラスケースに入らずに並んでいるし、時代時代の斬新さが、いろんな角度から見られて、とても興味深かったです。村上華岳の「熊」なんか、美術工芸学校の卒業制作なのにすごく大人っぽいし、梶原緋子さんはもっとキレイなイメージでしたが、「古着市」にはすこみを感じます。中でも麦僊、若いころの「髪」にはひきつけられました。やわらかな印象なのに、ラインがシャープ。何かすごく色気がありますね。鏡台の強い色と淡い肌の色の対比も鮮やかだし、ポトリと落ちてくる櫛の位置も絶妙。若いころから完成されている、と感じさせられます。年代と作品を対比しながら見ていくと、作家の年齢や背景を想像しながら、その時代の京都の空気を感ぜられるのではないのでしょうか。



村上華岳「熊」 1907年 京都市立芸術大学芸術資料館蔵

つうざき・むつみ 1967年京都市生まれ。京都市立芸術大学大学院音楽研究科修了。5歳でマリンバを始め、91年のデビューコンサート以降、自身でコンサートをプロデュース。作曲や編曲の委嘱を頻りに行うなど独自のパートリートを開拓する。アンティーク着物のコレクションでも知られ、03年からゆかたブランド「メテユンテ」のプロデュースも手がける。著書に「天使突破一丁目」「ソデカガミ～銘仙着物コレクション」「通崎好み」。



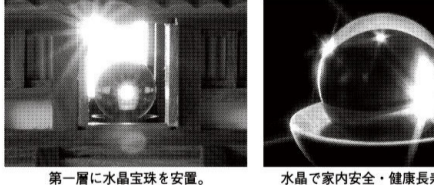
梶原緋子「古着市」 1920年、京都市美術館蔵

＜会 期＞ 11月7日(日)まで。月曜休館  
＜入館時間＞ 午前9時～午後4時半  
＜会 場＞ 京都市美術館(京都市左京区岡崎円勝寺町124、☎075-771-4107)  
＜入 場 料＞ 一般1200(1100)円▽高校・大学生800(700)円▽小中学生400(300)円—かっこ内は20人以上の

団体料金。「高島屋百展～近代美術の歩みとともに」(10月29日まで、同美術館)とのセット券(一般2000円)を会期中、会場で販売。  
＜主 催＞ 京都市立芸術大学、京都市美術館、毎日新聞社、京都新聞社



別売専用ガラスケース 寸法(約):高さ114×幅55×奥行55cm



第一層に水晶宝珠を安置。



水晶で家内安全・健康長寿を祈念。

**東京書芸館** 美術頒布会  
〒140 東京都品川区南大井3-28-3  
TEL:03(3762)7609  
FAX:03(3762)7609

威風堂々の五重塔 緑檀彫刻  
まさに奈良や京都の古刹の五重塔を前にしたような崇高な第一印象に、息を飲みます。五層に重なる屋根の頂点には、すっきりと聳える九つの相輪。全高約100cmの大きさも、圧倒的ですね。本作品は「翡翠木」とも称される緑檀を用いた五重塔。濃緑の光沢と重厚感が、その場を漂と引きしめ、古の時代への限りない郷愁へと誘います。

精緻な細部の作りと水晶宝珠  
微妙に反りを見せる五層の荘重な屋根。軒裏に重なる複雑な組木の凹凸。精緻な欄干の造形と、見事な格子。垂は東京書芸館を厳選し、手彫り・手造りした傑作です。緑檀は、時が経つにしたがって、金色に輝く擬宝珠に、揺れる風鐸。ま

ご尊家の家宝。《緑檀》五重塔  
■家内安全、健康長寿、子孫繁栄を祈念する逸品。高さ100cmの「緑檀五重塔」。

■お申込み方法  
ハガキか電話またはFAXでお申し込みください。  
お申し込みは、五重塔の送料は別途です。送料はお客様のお持ち先まで。送料はお客様のお持ち先まで。送料はお客様のお持ち先まで。

成功の木、生命の木、木の宝石《緑檀》  
緑檀は、黒檀や紫檀の仲間であり、ワシントン条約で輸出が規制されるほどに希少な銘木。仄かな芳香を放ち、世界一重い木として知られています。その最高の魅力は翡翠のごとき緑色の艶めき、時を経つにつれ色が変化し、美しい「層立つ」木を産する「幻の聖木」なのです。

威風堂々の五重塔 緑檀彫刻  
さまざまに色が変化する不思議な特徴。ことに歴史あふれる荘厳な御藍のよう落ち着いた自然なたたずまいです。さらに各層の一つ一つの扉は、開閉可能です。そっと覗いてみれば、寺院特有の静謐な空間が目の前に広がります。

威風堂々の五重塔 緑檀彫刻  
威風堂々の五重塔 緑檀彫刻

威風堂々の五重塔 緑檀彫刻  
威風堂々の五重塔 緑檀彫刻

威風堂々の五重塔 緑檀彫刻  
威風堂々の五重塔 緑檀彫刻

威風堂々の五重塔 緑檀彫刻  
威風堂々の五重塔 緑檀彫刻

威風堂々の五重塔 緑檀彫刻  
威風堂々の五重塔 緑檀彫刻

威風堂々の五重塔 緑檀彫刻  
威風堂々の五重塔 緑檀彫刻

威風堂々の五重塔 緑檀彫刻  
威風堂々の五重塔 緑檀彫刻

威風堂々の五重塔 緑檀彫刻  
威風堂々の五重塔 緑檀彫刻

威風堂々の五重塔 緑檀彫刻  
威風堂々の五重塔 緑檀彫刻

威風堂々の五重塔 緑檀彫刻  
威風堂々の五重塔 緑檀彫刻

威風堂々の五重塔 緑檀彫刻  
威風堂々の五重塔 緑檀彫刻

威風堂々の五重塔 緑檀彫刻  
威風堂々の五重塔 緑檀彫刻

威風堂々の五重塔 緑檀彫刻  
威風堂々の五重塔 緑檀彫刻

威風堂々の五重塔 緑檀彫刻  
威風堂々の五重塔 緑檀彫刻

威風堂々の五重塔 緑檀彫刻  
威風堂々の五重塔 緑檀彫刻

威風堂々の五重塔 緑檀彫刻  
威風堂々の五重塔 緑檀彫刻

威風堂々の五重塔 緑檀彫刻  
威風堂々の五重塔 緑檀彫刻

威風堂々の五重塔 緑檀彫刻  
威風堂々の五重塔 緑檀彫刻

威風堂々の五重塔 緑檀彫刻  
威風堂々の五重塔 緑檀彫刻

威風堂々の五重塔 緑檀彫刻  
威風堂々の五重塔 緑檀彫刻

威風堂々の五重塔 緑檀彫刻  
威風堂々の五重塔 緑檀彫刻

威風堂々の五重塔 緑檀彫刻  
威風堂々の五重塔 緑檀彫刻

威風堂々の五重塔 緑檀彫刻  
威風堂々の五重塔 緑檀彫刻

威風堂々の五重塔 緑檀彫刻  
威風堂々の五重塔 緑檀彫刻

威風堂々の五重塔 緑檀彫刻  
威風堂々の五重塔 緑檀彫刻

威風堂々の五重塔 緑檀彫刻  
威風堂々の五重塔 緑檀彫刻

威風堂々の五重塔 緑檀彫刻  
威風堂々の五重塔 緑檀彫刻

威風堂々の五重塔 緑檀彫刻  
威風堂々の五重塔 緑檀彫刻

威風堂々の五重塔 緑檀彫刻  
威風堂々の五重塔 緑檀彫刻

威風堂々の五重塔 緑檀彫刻  
威風堂々の五重塔 緑檀彫刻

貴方様のあらゆる願いが叶いますように  
中国木彫界の俊英 蔣先林作

# 緑檀五重塔

「翡翠木」緑檀を、精緻に組木し、造形した大型《五重塔》  
水晶宝珠で、ご尊家の守護と健康長寿を祈念。

高さ100cm!!  
感動の巨塔



寸法(約) 高さ100×幅42×奥行42cm  
重さ約 14.5kg、材質・緑檀、真鍮、水晶